

## 学校便り

第320号  
平成25年12月25日練馬区立光が丘第八小学校  
校長 鈴木隆志

## 冬の星空に思う

副校長 田中豊一

平成25年（2013年）が過ぎようとしています、今年はどうのような年だったでしょうか。学校では、子供たちは日々成長し、この一年で本当に大きくなったというのが実感です。

また、先日の「教育についてのアンケート」では、お忙しい中御協力をいただき、ありがとうございました。結果を集計し、吟味し、今後の計画に生かしていこうと思います。結果の報告については、しばらくお待ちください。

ところで、夜長の冬至前後は日が暮れるのも早く、夕暮れになると元気一杯に聞こえていた子供たちの声も早々に止み、校舎は急に寂しく感じられます。私は仕事を済ませて学校を出て家路につきませんが、その途中には、夜空を仰ぎ見る絶景のロケーションがあります。

そこでは、秋の星座が西に傾き、一等星が賑やかな冬の星座が登場してきます。東には、きれいにオリオン座の三つ星が並び、リゲルとペテルギュウスに目をやると、次は光輝くシリウスとプロキオンの冬の大三角が目に入ります。今度は右に、牡牛座のアルデバランとスバルが…、そのまま北に目を移すと、カシオペア座と北極星がしっかりと輝いています。冬の星空の散歩は楽しいものです。

以前はこんなに見えなかった、私の子供の頃と比べると東京の空はきれいになった、と思います。12月14日には、双子座流星群の流れ星をいくつか見ることができました。三大流星群を家族で楽しめるくらい自然を後世まで残したいものだと思います。そのうち、冬の大三角を貫く天の川が、もっとはっきり見えてくるに違いありません。

自然の環境は、一度壊すと簡単に元には戻りません。テレビゲームの主人公が簡単に復活するような訳にはいきません。これだけ東京の空がきれいになったのも、よい環境を取り戻そうとした取り組みが少しずつ実を結んできたからだと思います。しかし、まだまだ道は半ばです。昔のような、よりよい環境を取り戻すには、一日一日気の長くなるような努力を続けなければなりません。一人一人がよりよい環境作りへの意識をもち、人任せにしないで努力することが大切です。

我々が次世代に残すべきものは、自然を破壊することではなく、自然と共存するよりよい環境だと思います。この冬休みには、ぜひお子さんと一緒に夜空を眺め、よりよい環境作りや自然の素晴らしさについて話し合ってみてください。親子の絆が深まるとともに、自然科学の楽しさ、不思議さ、偉大さに気付かされることと思います。

今年は、期待したバンスターズ彗星やアイソン彗星は肉眼で見ることができず残念でしたが、来年は、また皆既月食を見ることができそうです。楽しみですね。

唱歌『冬の星座』の歌詞の好きな部分を紹介します。「ほのぼの明かりて 流るる銀河 オリオン 舞い立ち スバルはさざめき 無窮をゆびさす 北斗の針と きらめき揺れつつ 星座はめぐる」

夜空の壮大さを表す素晴らしい詩だと思います。私たちは、宇宙の中で生活しているにもかかわらず、なかなか宇宙に目を向ける時間を作るのが難しいようです。しかし、宇宙の中で生きる私たちはもっと宇宙に目を向けて、その恩恵に甘んずることなく積極的に自然を守りたいものです。

光っ子たちが大きな視野をもち、明るく平和な未来を築く原動力となることを心から願っています。今年沈む夕日に感謝し、来年昇る朝日に夢や希望をもち、全員が健康で、新しい年を迎えることができますように…。また来年もよろしくお祈りします。